

第509回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和2年3月4日(水) 午前10:30より

2. 開催場所 長野放送本社会議室

3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 8名
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)

委員長 林 新一郎

副委員長 渡辺 重久

委員 加藤 恵美子

委員 笹本 正治

委員 佐藤 裕一

委員 武重 正史

委員 田中 宏昌

委員 南澤 光弥

○放送事業者側出席者名

外山 衆司 (代表取締役社長)

太田 耕司 (取締役 報道制作担当)

飯嶋 憲彦 (取締役 編成・業務推進・
放送番組審議会担当)

春原 晴久 (報道制作局長)

早川 英治 (編成局長)

浅輪 清 (編成局次長 兼番組考査部長
兼放送番組審議会事務局長)

北澤 輝久 (編成部長 兼視聴者室長)

前角 綾 (制作部)

東澤 鈴美 (制作部)

4. 議題

(1) 番組審議

『 NBS フォーカス∞信州

信州・学びの改革 ～主体性・協働性・創造性を育む～ 』

令和2年1月24日（金）夜7時00分～7時57分放送

(2) 視聴者対応報告（令和2年2月分）

(3) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・児童、生徒の生き生きとした表情や行動、リアルな現場で様々なものを吸収しようとする子どもたちの純粋な探求心が感じられた。
- ・各学校で共通しているのは、子どもたちの五感を養おうとする試み、特に視覚、聴覚、触覚、学校を出て現場を見て聞いて触れるということが大事で新たな試みだと感じている。
- ・高校の先生が言っていた「社会人になっても主体的に取り組むリーダーになる養成が必要だ」ということをまさに感じる。
- ・番組の趣旨、課題、目的というものを冒頭にしっかり説明をした上で「教育問題は広いけれども今回はここに光を当てて番組を放送します」と言った方が良かった。
- ・信州教育の現実問題として今回取り上げた面の他に、学力低下は主要テーマになっているのではないか、産業界とすれば喫緊の課題だと思う。

- ・教育制度の効果検証をすれば、こういう教育というのはこういう人材が輩出され、重要な時代になってきているということが、首尾一貫して物語る番組になったと思う。
- ・産業界では喫緊の課題で採用ができなくなっているから、こういう良い教育を受けた人たちなので長野県に戻ってきてもらいたいと思った。
- ・自分の意見を言うことは必要だが、自分の意見が偏っていないかどうかまでチェックできるような子どもたちを作っていくところまで来ているのではないか。
- ・専門性を持った先生方が減っている。改革するのは子どもたち問題以上に、教師の問題があるのではないか。
- ・本当は新しくするだけでは良くて、時間経過の中でどこに問題点があるか客観的に触れていかなければいけない。その客観性が弱いような気がした。
- ・教育の大事さは、本当は各学校のカリキュラム以上に、熱意だとか自分たちが変えていくという部分が必要になってくる。それをやるためにももう1回教師改革だとか親世代の改革が必要ではないかと感想を持った。

- ・各学校の実践例が番組構成上分散していたこともあるせいか、番組テーマ「主体性、協働性、創造性を育む」が統一感あるメッセージとして伝わってこない面もあった。
- ・大学進学率などの学力批判と村を育てる学力というものをどう両立させていくのか歴史的な検証分析も欲しい。
- ・教育というテーマは広範で、皆さん関心もあり、多くの子どもや生徒が登場する番組だからシリーズ化して定番の番組になれば視聴者が増えるのではないか。
- ・中学の担任の交代制は新鮮な驚きだし、びっくりした。いろんな取り組みが始まっているということを紹介したという点では良かったと思う。
- ・企業もどういう人を採用していくのか、どう企業にバトンタッチされて育てていくのか、というのも重いテーマとして考えさせられた。
- ・主体的に行動するとか、自分で考えて行動することができる人が生きていく力がつけられるので、そのところも今後取材して行って欲しい。
- ・信州教育の改革、未来の新たな社会を作る人材を求めるのであればそれは何なのか、そこまで踏み込んでいただければさらに良かったと思う。
- ・教育を受けた人材が将来どのようなようになっていくのか、ぜひ注目して息の長い番組を作っていけば価値があると思う。

(2) 視聴者対応報告

資料に基づき、令和2年2月の視聴者対応について編成局より報告を行った。

(3) その他

以上